



体験型観光「マリン・ツーリズム山田」の活動の様子（山田湾）



山崎泰昌議員

水産振興

水産業の主体的な政策

行政は側面からの支援が基本

質問 現在の水産行政は、各漁協の要望や意見に対し、町の立場だけを考え、協力する・援助するという答えしか見えてこない。基幹産業である水産業に対し、町がイニシアチブを取って実施してきた政策はあるか。

沼崎町長 水産業振興は、関係団体が自立的な企業経営を行い、行政は側面から支援するのが基本的な姿だと考えている。実施してきた政策は、漁業集落環境整備事業、後継者育成、グリーン・ツーリズムの推進などであり、平成19年度には地域営漁計画の策定支援を行うなど、多岐にわたっている。

質問 アワビの中間育成をやめた理由は、内田水産振興主幹 種苗センター時代の技術を各漁協に移転し、種苗を放流できるまでになった。また、県栽培漁業協会で安価な種苗を生産している。

町の考えを聞く



5月に行われた「山田町スポーツ少年団ミニバスケットボール大会」の様子（山田中学校体育館）

スポーツ振興

冬期でも活動できる暖房装置を 屋内競技には必要ない

質問 「教育振興基本計画」で競技スポーツの振興、スポーツ活動の推進を示しているが、町の姿勢からは、計画性・積極性がみられない。冬期でも活動でき、各種競技大会を開催できるよ

質問 「教育振興基本計画」で競技スポーツの振興、スポーツ活動の推進を示しているが、町の姿勢からは、計画性・積極性がみられない。冬期でも活動でき、各種競技大会を開催できるよ

質問 厳しい社会状況の中で子育てしている親は、共働きや変則的な時間での就労を余儀なくされている。また、核家族が進み、地域活動、PTA活動など、時間に追われる日々である。父兄の精神的、肉体的負担を軽減するため、「支払は前払いで希望者だけの給食デリバリーサービス」に取り組む考えはないか。